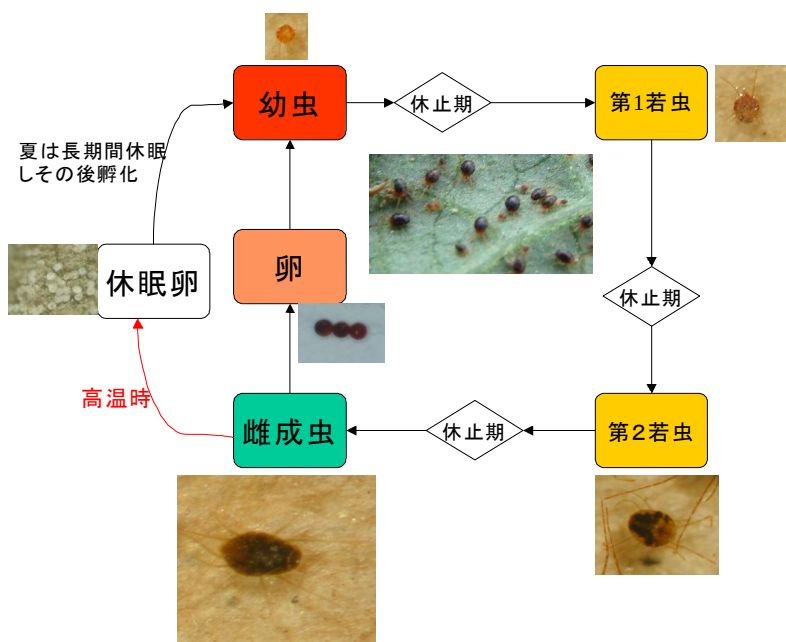


## トンネルニンジンで発生する ホモノハダニの生態と防除

徳島県内のトンネル栽培ニンジンの一部圃場で黄化葉、生育阻害の大きな被害が発生し、原因を調査をしたところ県内ではこれまで報告のなかったホモノハダニであることが判明しました。ホモノハダニのニンジントンネル内での特殊な生態を明らかにするとともに、防除法を研究しました。

### ホモノハダニの生態

#### (生活環)



#### (形態・習性)

雌成虫の体長は約0.6mmで、濃褐色～濃赤色。第1脚と4脚が長い。成虫は雌のみが発生し、雄はいない。幼虫～成虫は地表面と植物の茎葉をすばやく活発に歩きまわり、糸は出さない。赤色の卵を産むが高温時期には白い膜に包まれた休眠卵を産む。産卵、脱皮は、地表面の土塊、植物残渣、トンネル支柱の資材等の表面で行う。脱皮前の休止期には集合する性質がある。



休止期の集合状態



被害株

### 防除方法

#### 薬剤防除

- ① ニンジンに適用のある登録薬剤散布としてはアファーム乳剤、ランネート45DFの防除効果が高い。生育初期なら、野菜類に適用のある気門封鎖系薬剤（エコピタ、アカリタッチ、粘着くん 等）もある程度効果がある。
- ② 1株当たり25頭（幼虫～成虫の合計）以下の少発生時でないと、薬剤散布の防除効果が低い。
- ③ 茎葉だけでなく地表面にも生息しているので、散布薬量は農薬適正使用基準の範囲内でできるだけ多目にする。

#### 耕種的防除

- ① 夏期に水田状態にすると休眠卵の死亡が多くなり、発生が少なくなる。
- ② 発生圃場の土壌には休眠卵が存在するので、発生を広げないためにトラクター等による土壌の移動を防ぐ。

#### 問い合わせ先

徳島県立農林水産総合技術支援センター 農業研究所 病虫害担当

TEL (0883) 24-2217

FAX (0883) 24-2305

<http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/nouken/>